

クローズアップ 診療科

リハビリテーション科

- 松井 晃治 ●江村 健児
- 河井 俊 ●昇 さやか

4名の理学療法士で構成されるリハビリテーション科では、入院患者さんおよび外来患者さんに対して、運動療法と物理療法による治療を行っています。

リハビリテーション室では、骨折や病気の後で気分の落ち込んでいる時ですので、患者さんとのわきあいあいとした雰囲気づくりは特に大切にしています。

しかし、ただよい雰囲気の中で治療を行えばいいということではありません。リハビリテーションの治療は、日々の積み



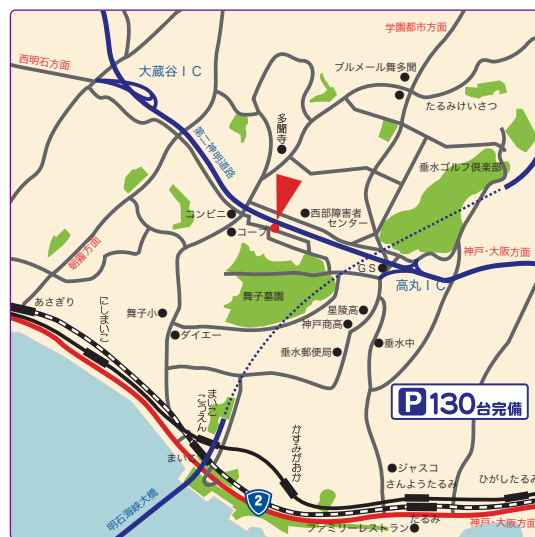
重ねによって改善していきます。患者さんに丁寧に分かりやすく説明し、強い信頼関係を作らなければ、治療効果は半減してしまいます。患者さんの求めているものを知り、話し合いながら信頼関係を築いて、患者さんにより良い状態に改善してもらうことが最大の使命と考えています。

また、リハビリテーションは、より短期間でより良い状態になっていただく責任があります。そのために、現在の治療が最善であるのか、これから患者さんにどうすればいいのかを医師、看護師と理学療法士が集まってカンファレンスしています。スタッフが共通した認識をもつこと、これが最善の治療につながるからです。

また、リハビリテーションは、より短期間でより良い状態になっていただく責任があります。そのために、現在の治療が最善であるのか、これから患者さんにどうすればいいのかを医師、看護師と理学療法士が集まってカンファレンスしています。スタッフが共通した認識をもつこと、これが最善の治療につながるからです。

当科の患者さんは地元の方が多い傾向にあります。退院する患者さんが『また何かあればお願いします。』と言われることがあります。『ここは病院です、怪我や病気にならないで下さい。』といいます。「患者さんに良くなってもらおう」これだけがスタッフ共通の合言葉です。

今後も、地域の皆様に信頼され、確実な治療によって喜んでいただけるリハビリテーション科を目指してチーム一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。



●JR舞子駅・山陽電車 舞子公園駅から
53・54系統 学園都市駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分

●神戸市営地下鉄 学園都市駅から
53・54系統 舞子駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分

●JR垂水駅・山陽電車 山陽垂水駅から
2系統清水が丘行 清水が丘停留所下車



医療法人 薫風会

佐野病院

理念

医

地域医療への貢献 患者さんの立場に立った医療

経

健全な経営 着実に前向きな病院の発展

倫

悔いなき職場 生活と人格の向上

方針

- 1.私達は、患者さんの病を癒し、苦しみを和らげ、延命に努めることを誓います。
- 2.私達は、患者さんの人格・人権を尊重し、合意を旨とし、信頼に応えることを誓います。
- 3.私達は、法を遵守し、過誤を防ぎ、生涯、医の知識と技術の研鑽に励むことを誓います。
- 4.私達は、職員相互の職分を理解し、尊敬し、協力して患者さんの医療に当たることを誓います。

〒655-0031 神戸市垂水区清水が丘2-5-1
TEL：078-785-1000 FAX：078-785-0077
編集・発行：地域医療連携室
診療科目：内科、消化器内科、腫瘍内科、内視鏡内科、糖尿病内科、人工透析内科、疼痛緩和内科、外科、消化器外科、腫瘍外科、内視鏡外科、肛門外科、整形外科、リハビリテーション科、婦人科、放射線診断科

URL：http://www.sano-hospital.or.jp/

SANO HOSPITAL NEWS



医療法人 薫風会 佐野病院
編集・発行：地域医療連携室

FEBRUARY 2010

2

URL：http://www.sano-hospital.or.jp/

～佐野病院整形外科のビジョン～

地域の整形外科医療の 拠点となるために

佐野病院の診療部門の中から、今月号は整形外科にスポットをあて、その現状をご紹介します。

これからの整形外科治療の方向性はもちろん、地域医療における佐野病院の役割など、多角的な面から整形外科の在り方について考えてみました。

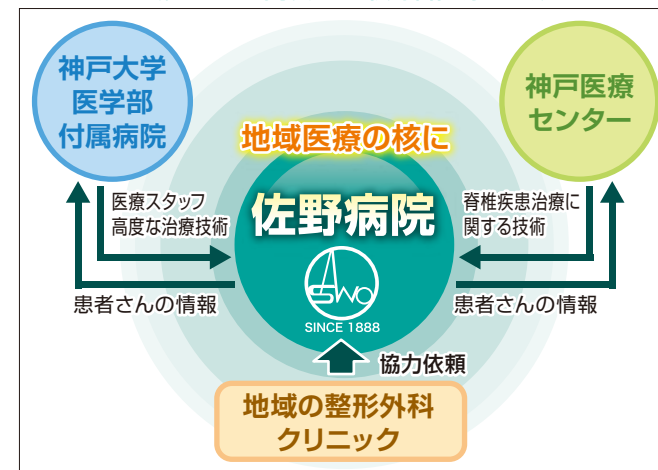
■神戸大学医学部附属病院との連携による高度な技術

当院における整形外科治療は、技術的な面からみて高い水準にあるといえます。神戸市垂水区の地域に密着した個人病院でありながら、高いレベルの治療が可能となる背景には、神戸大学医学部附属病院と佐野病院の関係性があります。

現在、当院の整形外科診察は、主に神戸大学医学部附属病院の医師が非常勤の形で担当しています。当然、大学病院で研究を重ね、高い技術をもった整形外科のエキスパートが診察・治療に当たっていることから医療水準は高く、手、肩、ひじ、関節、大腿骨、外傷などに関して、非常に複雑な治療や手術が可能となっています。

また、万が一、検査によって腫瘍などが見つかった場合でも、

地域における高度な整形外科医療の実現



当院に勤務している医師を通して、すぐに神戸大学医学部附属病院と連携して手術などの処置が可能ならに、患者さんの情報も正確に伝えることができます。さらに、脊椎などの疾患が見つかった場合についても、神戸医療センターとのパイプが築かれており、こちらもスムーズな連携による治療が実現します。

このように、当院を窓口として、神戸大学医学部附属病院および神戸医療センターなどの技術や設備を患者さんに提供することができるため、高度な医療が可能となっています。地域の病院で大学病院と同じ治療が受けられることは、非常に大きなメリットといえます。

■専門知識を生かすチーム制での治療

当院の外来診察を担当する医師は、基本的な知識の上に、それぞれ専門分野における高度な知識を積み重ねています。そのため、疾患部位、難易度、そして個人のスケジュールに合わせてケースごとに最適なチームを組み、専門分野の知識を生かして治療にあたっています。

また、整形外科治療の後にはリハビリが必要なケースが多くみられますが、当院のリハビリテーション科には4人の常勤理学療法士がいるため、術後早期からのリハビリテーション治療が可能です。整形外科とリハビリテーション科では、毎週ミーティングを実施し、進行状況や問題点を確認しながら協力して治療にあたることで、術後のリハビリまでを考えた総合的なケアを実現しています。

■地域医療の核となるために

神戸大学医学部附属病院をはじめとする他病院との連携が、整形外科の最大の特徴といえますが、今後は、このシステムを院内だけでなく地域にも広げ、近隣クリニックの先生方の要望にもできるだけ応えられる病院を目指していきます。

大病院とのパイプをさらに太く保ちながら、近隣クリニックからの要望を吸い上げ、整形外科の医療水準を地域全体で高めるための拠点としての役割を果たしていくことが、佐野病院整形外科の次なるステップだと考えています。

CONTENTS

特集：整形外科医療の今
進化を続ける整形外科医療

神戸大学病院 整形外科 牧野 健先生 ————— P.02

新任ドクターの紹介

消化器センター 外科医師 生本 太郎先生 ————— P.03

Kiss FM「ホームドクター」出演記録

第3話 潰瘍性大腸炎 ————— P.02-03

特集 進化を続ける整形外科医療



運動器である骨、関節、筋、腱、およびそれらに関わる神経を診療する整形外科。日常の中で多くの人が経験したことの骨折や脱臼などの外傷から、脊椎脊髄に關係する疾患まで、幅広い疾患に対応する佐野病院・整形外科の最新の動きをレポートします。

小さく、早い治療

整形外科で行う手術は、できるだけ小さい傷で、早い回復が可能な方法が主流となっています。神経や血管の剥離など、細かい作業を必要とするケースで使用するマイクロサージャリーや関節治療に使用される内視鏡など、高性能な医療機器による治療と画像の進歩、そして、それらを使いこなす技術の向上によって、整形外科の治療は小さい傷で回復が早い治療へと進化しています。

医療用製品の変化

整形外科の治療には、骨の固定や関節のスムーズな動きを助

けるために、さまざまな医療用製品が使用されますが、これらの医療用製品は近年格段の進歩を遂げています。従来であれば、手術後に生じていた製品の緩みなども大幅に解消されてきており、手術直後の形態が保持されたまま骨癒合が得られるなど、手術後の早期回復と早期からのリハビリを可能にしています。

安全な施術

佐野病院の整形外科手術は、よほど短時間で終わるものを除き、ほぼ全身麻酔によって行われます。完全に効かないこともある局所麻酔は、血圧の上昇や痛みを伴うため、医師が治療に専念できないケースも出てきます。一方、全身麻酔の場合は、患者さんの状態が安定しているため、医師は手術に全神経を集中させることができます。これにより、患者さんにとって、より安全な手術環境を作り出しています。



【手術前】
肘の上腕骨の粉碎骨折と
橈骨神経損傷の例



【手術後】
このような複雑な症例にも
対応できる当院の整形外科技術



医療用製品を使用した
手術の例



Profile

牧野 健 (マキノ タケシ)

神戸大学病院 整形外科

【専門領域】

上肢の再建、手の外科、
マイクロサージャリー

現在、週に2回の外来診療に加え、
当院での手術などを担当

Information

NEW FACE

新任ドクターの紹介

消化器センターのさらなる充実のために



Profile

生本 太郎 (イクモト タロウ)

消化器センター 外科医師

2009年7月 佐野病院入職

■がんセンターでの経験を地域に

私は、千葉県にある国立がんセンター東病院で5年間、上部消化器がんに関する知識を深め、技術を磨いてきました。

その知識と技術を、今度は地域に還元したいと思っていたところ、国立がんセンター東病院で一緒に仕事をしていた小高医師が、がんセンターと全く同じレベルの治療を神戸で実現するために頑張っておられると聞き、非常に共感を覚えました。

■一貫した消化器がん治療を提供

私が専門とする上部消化器がんの中でも、肝臓、胆道、すい臓のがんは特殊であり、治療方法も全く異なるうえに直りづらいのが特徴です。大規模な手術になることも多いため、当然、患者さまのリスクや危険性も高くなります。だからこそ、専門的な研修を積んだ医師が必要となるわけです。

また、消化器センターの治療として代表的な大腸がんは、非常に肝臓に転移しやすいがんとして知られています。当院の患者さまの中にも、大腸がんが肝臓に転移したケースが増えていますが、このような場合でも他の病院に移ることなく、一貫した治療を受けていただける環境を整えています。これは、患者さまに

ととても大きなメリットになるはずです。

当院はスタッフ間の距離が近く、セクションの違いによる壁も低いので、それぞれの専門知識を持ち寄って治療にあたることで、自分の知識・技術以上の医療を提供することができます。これは、この規模の病院ならではの強みだと思います。

■患者さまに優しい医療を

下部消化器がん治療を軸にスタートした消化器センターですが、現在は上部消化器がんの患者さんも徐々に増えています。

胆石の患者さまも増えていることから、昨年10月には、へそ部分に2～3cm程度の孔を1カ所だけ開けて行う最新の術式である「SILS」*もスタートさせました。今後も積極的に技術向上を図り、患者さまに負担が少ない医療の探求に、力を尽くしたいと思います。

※SILS

手術後の傷跡が残りにくい治療。

手術をうけられた患者さまには大変好評をいただいています。



「ホームドクター」出演記録

ラジオKiss-FMの「ホームドクター」のコーナーに、毎週金曜日、当院長である佐野寧が出演中です。リスナーの皆さんからの健康に関する質問に、佐野院長が分かりやすくお答えしているこのコーナー。聞き逃した皆さまのために、本紙面においても紹介させていただきます。

第3話

潰瘍性大腸炎

リスナーさんからの質問

腹痛と下痢が続き、病院で潰瘍性大腸炎と診断されました。原因がわからないと聞き、不安です。詳しく教えてください。

Q 潰瘍性大腸炎とは どういう病気ですか？

A 今、若い患者さんや40代、50代の方に増えてきている大腸の病気です。はっきりとした原因は分かっていませんが、直腸から微慢な炎症が連続しておこり、大腸に向かって進んでいく病気です。

Q どのような治療方法がありますか？

A 潰瘍性大腸炎は、以前から病態が分かっているため、現在ではいろいろな治療方法があります。軽い炎症の場合は内服薬で治療を行い、中等症の場合は、入院しての食事指導や、時には免疫抑制剤を打つ場合もあります。重症になると全身管理が必要なため、長期入院の可能性もあります。

Q 食事はどのようなものがいいですか？

A 刺激の多いもの、例えば、からいものやコーヒーなどの苦いものなどは避けてください。牛乳などにアレルギーがある患者さんは、主治医の先生に相談するようにしてください。

Q 精神的な要因は関係ありますか？

A はい。基本的には難治性で、原因の分からない病気であるため、完全治療は不可能で、症状は良くなったたり悪くなったたりします。その原因として、精神的ストレスや環境の変化などが考えられています。

Q では、ゆづり汁治療してはいいんですか？

A そうですね。長期にわたり病気と付き合っていくことが大事です。花粉症と同様、潰瘍性大腸炎は一度かかると一生付き合っているかなければならない病気です。免疫がからんでいるため、うまく病気と付き合うことで症状を悪化させず、治療していくことができますので、あまり不安になる必要はありません。また最近では、「潰瘍性大腸炎の友の会」など、患者同士の交流会が各地域で発足されている場合もあります。そこでは、潰瘍性大腸炎の方が食べられる食材を使い、皆さんでディナーを楽しんでいるところもあるそうです。

次回、第4回は

「アルコールと肝臓」についてです。